

未成年のアスリートのためのドーピング検査ガイド

未成年（18歳未満）のアスリートがドーピング検査の対象となった場合、その手順は成人のアスリートと同様ですが、安全とウェルビーイングを確保するため追加の配慮がなされます。

主な変更点

未成年の検査時には、検体採取要員を2名配置する

18

同伴者のポイント

プロセス全体を通じて、選手が自身の権利と責任を理解できるよう支援する
検査手順が正しく実施されているか、そのプロセスを確認してください。

アスリートが同伴者の関与についてのすべてを決定することを覚えておきましょう。

検査の意義を伝える重要な役割です。例えば「検査はアスリート自身の努力と成功を証明するもの」といった前向きな視点を持つように促すことを心がけましょう。

これは英語原文の翻訳版です。意味や趣旨に矛盾がある場合、英語版が優先されます。

01 通告

アスリートには、ドーピング検査に同伴者1名の立ち会いを希望するかどうか尋ねられます。これは必須ではありませんが、強く推奨されます。

同伴者の立ち会いを希望する場合、ドーピング検査員（DCO）と2人目の検体採取要員（SCP）がアスリートに同行し、同伴者の所在を確認します。その後、同伴者の立ち会いのもとで通告を完了します。

アスリートが同伴者を希望しない場合、通常通り通告が行われますが、アスリートはいつでも同伴者の立ち会いを要求できます。

02 同行

アスリートは常にDCOまたはSCPから見える位置にいないけません。さらに、未成年アスリートの場合、ドーピング検査が完了するまで、常に成人の同伴者または2人目のSCPのいずれかが同行します。

03 検体採取

稀ですが、アスリートの要請により、検体採取中に同伴者がトイレに立ち会うことが可能です。

SCPチームのメンバーである付添人は、DCOの作業過程を監視します。この付添人は、検体採取中のアスリートを直接見ることはありません。その役割はDCOの行動を監視することです。

アスリートの要請があれば、その同伴者が追加の立会人として行動可能です。



04 ドーピング・コントロール・フォーム（公式記録書）の記入

アスリートおよび同伴者は、ドーピング・コントロール・フォームに正確な情報が記載されているかを確認し、署名しなければなりません。